

# YMCA News

# 1

🌸 新年あけましておめでとうございます 🌸



## 絶対的貧困・相対的貧困とYMCA

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

1 貧困をなくそう



盛岡YMCAに集う関係者の皆さま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

さて、新年から貧困にかかわる話題で恐縮ですが、私は、敢えて、この話題を取り上げることで「新年の夢」を語りたいと考えています。

貧困には、絶対的貧困と相対的貧困があると言われています。絶対的貧困は、アフリカの干ばつによる飢餓や民族紛争に起因する難民などを想像していただくとういでしょう。一方、相対的貧困は、先進諸国を含む多くの国々で、経済格差により、その国の文化的水準を満たすことができない人々の状況を指します。

盛岡YMCAは、前者の絶対的貧困に対しては、国際協力基金への募金活動を通じ、世界中のYMCAと連帯して、精力的な取組みを進めてきました。子どもたちも積極的に街頭募金に立ち、協力してくれました。

しかし、一方の相対的貧困に対しては、無力であったことを認めざるを得ません。YMCAの従来のプログラムは、英会話やキャンプ、スポーツ教室など、社会的中間層を対象とした有料のプログラムが大半でした。もともと、欧米等に比較して寄付文化が低調な日本にあって、中間層が薄い地方都市のYMCAにおいては、通常のプログラムの継続に精一杯で、貧困世帯の子どもや発達上の障害を抱えた子どもを包摂するプログラムは、断続的な試みの域を出ませんでした。

近年、私たちの国では、ますます経済格差が拡大し、相対的貧困が深刻な状況となっています。貧困研究者の間では、「相対的はく奪」という考え方が重視され、貧困家庭においては、最低限の衣食住が確保されたとしても人々との豊かな交流や人生を楽しむ経験などが子どもたちに提供されぬまま世代間に連鎖し、悪循環を招いていることが問題視されています。日本社会は、子どもの貧困に関して、想像力が乏しく、キャンプやスキー教室への参加など、子どもの情操や社会的スキルの向上を目指したプログラムを必須とは考えてきませんでした。

しかし、最近になって、厚労省を中心に、こうした子どもの現状に問題意識を持ち、従来の施策を見直す動きがあり、また、県や市などの自治体においてもこれに呼応した取組みへの模索が始まっています。YMCAには、長年築き上げてきた青少年キャンプやスポーツ教室のノウハウ、発達障害等を含む、子どもの多様性を視野に入れたプログラムの実績があります。今後、自治体や他のNPO等と連携し、「子どもの貧困」をめぐる状況に一石を投じることが、私の夢となっております。本年も引き続き、皆様のご支援をお願いします。

盛岡YMCA 理事長 魚住英昭



### 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



# ジュニアスキーキャンプに行ってきました



こんにちは!はっちです!私から、2021年ジュニアスキーキャンプの報告をいたします。私たちは12月27日から12月29日まで、安比高原スキー場でスキーキャンプをしました。子ども37人、リーダー12人、スタッフ2人の参加となりました。

スキーレッスンでは、初心者の子も経験者の子も、それぞれスキーの技術が上達した嬉しさや、仲間とスキーをする楽しさ、スキーを滑り切ったという達成感を感じたように見えました。また、ふかふかの雪を目の前にし、思い切りダイブしたり、雪合戦をしたり、雪山に登って冒険をしたりと、たくさん降った雪をこぞとばかりに楽しんでいました。



その他にも、バイキングでわくわくして何回もおかわりをしている姿、ホテルで友達とお泊りという非日常にウキウキして眠れない姿、朝と夜のプログラムでグループの子と協力してミッションに挑んでいる姿、朝なかなか起きられない子を一生懸命起こしている姿、友達同士ですれ違いが起こったときに一生懸命向き合おうとする姿、次の日の準備をウキウキしながらしている姿など、本当に色々な姿を見ることが出来ました。

このジュニアスキーキャンプでは、ちょっとしたケンカや困難に思えることもありましたが、それを乗り越えてみんな大きく成長できたのではないかと思います。そしてそれ以上に楽しいことが数え切れないほどあり、とても充実したキャンプになりました。

このキャンプに参加することが出来て心から良かったと思います。本当にありがとうございました!



岩手大学4年  
佐藤亜美  
(はっちリーダー)

## ちきゅうと、あそぼう。 ～野外活動報告～



2021年11月28日、『電車を使ってお馬さんに会いに行こう!』と題して、盛岡駅から使ってみんなで馬こパーク・いわてへ行き、思い切り遊び、電車を使って帰ってきました。

馬こパーク・いわてでは、乗馬体験を行いました。最初は怖がって馬に近づかないようにしていた子たちが、プログラムを通して少しずつ馬に慣れ最終的に馬に乗った時は、胸が熱くなるような、言葉で表現できない感動が私の中にありました。馬との触れ合いが終わった後の子どもたちの笑顔は、時間がたった今でも忘れることは出来ません。



私自身は、初めて野外活動のメインリーダーをさせていただき、今回は今までしたことのないような仕事や、考えたことのないようなことまで考える必要があり、とても勉強になりました。例えば、当日のあいさつや進行、タイムスケジュールの作成などがあり、特にミーティングは、リーダー達の思っていることを引き出しやすい雰囲気を作り、かつ時間を守って話し合うことを意識しながら進行了しました。難しく大変なことばかりで、いつもメインリーダーをしている先輩方がどれほどすごいことをしていたのかを気付かされました。

いつもよりも大変だと感じた時はありましたが、その分当日はめちゃくちゃ楽しかったです。私自身馬の餌やりなどが初めての体験だったということもあり、馬と実際に触れ合ったときは生命の素晴らしさを感じました。

今回の野外活動を通して、普段経験できないことを経験でき私自身成長することが出来ました。これからもYMCAの活動を楽しみながら頑張りたいと思います。今回の野外活動を通して、私自身大好きだったYMCAがより好きになりました。



盛岡大学3年  
菅原幸之  
(はなこリーダー)

## 国際協力募金報告



11月1日よりご協力をお願いしております国際協力募金ですが、皆様の温かいご支援のもと、たくさんの募金が集まっております。募金活動にご協力頂き、心より感謝申し上げます。

また、昨年度も設置させていただきましたスコーレ・パタタ様、LiRiO(盛岡大通商店街)様に加え、今年度は奥羽キリスト教センター様、盛岡南ドライビングスクール様、御菓子司山善本店様に、募金箱の設置を頂いております。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。募金箱の設置期間は2月28日までとなっておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひ募金へのご協力をお願い致します。

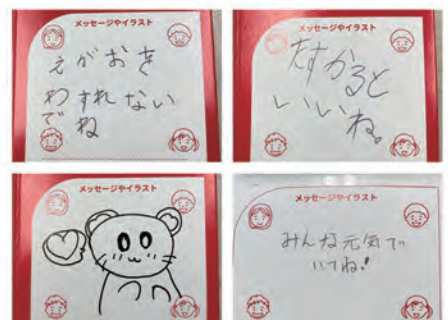
皆様から頂いた募金は、日本YMCA同盟を通じて、主にミャンマー(公衆衛生活動)、カンボジア(経済的な理由で、学校に通えない子どもたちへの支援活動)、タイ(児童保護活動)、ベトナム(小学校建設)、パレスチナ(就労支援活動等)、ネパール(収入を失った人の生活支援、災害支援)、アジアの東ティモール(子どもたちや若者の教育活動)への支援などに使われます。

皆様からのご支援により、1月4日時点で117,377円の募金が集まっております。皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。

また、2021年度目標額である350,000円まで232,623円となります。引き続き皆様のご支援とご理解、ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

※実施予定だった街頭募金活動ですが、今年度は実施しないことと致しました。(第2報にて2022年度は実施致しませんと記載しておりましたが、2021年度の誤りです。大変失礼致しました。)

盛岡 YMCA  
盛南センター  
国際協力募金活動担当  
藤原依音





## ～ぷらいむ・たいむ盛岡中央校～

中央センターのクリスマス会には、おむすびとぼんが、参加しました。オンラインで盛岡YMCAのぷらいむ・たいむ各校とサンタクロースをつないで交流をした後、ゲームを行いました。トナカイとサンタクロースの格好をして登場すると、子どもたちは元気いっぱい迎えてくれました。

最初は、紙に書かれたお題のものをジェスチャーや鳴き真似だけで表現し、同じお題の人同士で集まってみようというゲームをしました。子どもたちは思い思いのジェスチャーや鳴き真似をしながら仲間を探していました。

見事同じお題同士の子もたちでグループができたあとは、シングル・ベルの歌を使ったゲームをしました。子どもたちは、ノリノリで歌ったり、真剣にゲームに挑戦したりしていました。

最後は、イラストつなぎゲームを行いました。「冬といえば」のイラストをグループの1人が描いて、他のメンバーがなんのイラストかを当てたら交代し、描けた数を競うものでした。どんどん交代して沢山イラストを描いていくグループも、話し合いながら進めるグループも、他の子どもが描いたイラストに「これなんの絵?!」「あ～わかるわかる!」などとコメントをしながら進めるグループもあり、グループの個性が光っていました。

ゲームの後には子どもたちお待ちかねのプレゼント贈呈でクリスマス会を締めくくりました。

岩手大学4年 斎藤七穂(おむすびリーダー)

## ～ぷらいむ・たいむ前潟校～

今回ぷらいむ・たいむ前潟校で行われたクリスマス会に参加してきました。自分以外にも、ほや、ズッキーと一緒に子どもたちとゲームをしたりお菓子を食べたりして楽しく過ごさせていただきました。

まずは前潟校のスタッフが、クリスマスの始まりやサンタクロースの秘密などについて、手作りの人形を使った人形劇で楽しく教えてくれ、子どもたちも夢中になって鑑賞していました。

次にzoomを用いて、盛岡YMCAのぷらいむ・たいむ各校と合同で行われる、サンタクロースとお話をする時間となりました。各校の子どもたちが、サンタクロースについて知りたいことや気になることを質問し、それにサンタクロースが答えるという形式ですすめられ、サンタクロースの回答に対し、前潟校の子どもたちもツッコミをいれたり笑ったりと盛り上がりました。

その後は、私たちも参加してのリーダーチャレンジクイズを行いました。リーダーたちが体を張って様々なチャレンジをする前に、子どもたちはどのリーダーが一番上手くチャレンジを達成できるか予想したり、時には子どもたちもチャレンジに混ざったりして楽しみました。

ワサビ入りのシュークリームを食べているリーダーを当てたり、ボウリングで誰が一番多くピンを倒せるか予想したりと、どのチャレンジもとても盛り上がりました。

リーダーチャレンジクイズのあとはみんなでお祝いのクラッカーを鳴らし、集合写真を撮影し、おやつをみんなで美味しくいただきました。



今回行われたどのプログラムも、リーダーや子どもたちがみんなで楽しむことのできるとても素敵なものでした。来年もぜひ参加し、子どもたちと一緒にクリスマス会を盛り上げることができたらと思っています。

岩手大学3年 星野太志(ゲンリーダー)

## ～ぷらいむ・たいむ盛南校～

昨年に引き続き、2021年度も盛岡YMCAのクリスマス会に参加しました。今年は新型コロナウイルスの関係で、zoomでサンタクロースとぷらいむ・たいむの子どもたちが会話をするという試みを初めて行ったり、ぷらいむ・たいむでクリスマスツリーや帽子の製作を行ったりしました。

私はクリスマスツリーを作るグループで、子どもたちと一緒に世界に一つだけのオリジナルツリーをそれぞれ作りました。ツリーの土台作りを一人で黙々と頑張っている子や、友達と話し合いながら一生懸命飾り付けている子など、それぞれが思い思いの楽しい時間を過ごしていました。その中で、はさみやのりの貸し借りや、オススメの飾りを紹介し合うなど、子どもたち同士の関わりがたくさん見られ、私は嬉しさのあまりずっと笑顔になっていました。

サンタクロースと子どもたちがzoomで会話するという試みでは、通信環境などに少し問題があり思い通りにならないこともありました。しかし、音が聞こえないなりにジェスチャーや、ぷらいむ・たいむと携帯電話をつないでみるなどサンタ役として楽しみながら精一杯頑張ることができました。



今回のクリスマス会を通して、プログラムの進行や内容、スタッフと子どもたちの関わりなどとても勉強になることが多かったです。そして何より、子どもたちと一緒にクリスマス会をすることがこんなに楽しく面白くということに、YMCAに入っていないけれど気がつけませんでした。今回学んだことを活かしながらもっともっとYMCAの活動を楽しんでいきたいです。

盛岡大学4年 菅原幸之(ハナコリーダー)

## ～ぷらいむ・たいむ向中野校～

12月24日、向中野学童のクリスマス会に、ぶんちんリーダーとはっちリーダーが参加してきました。私はリーダーになって初めての、ぷらいむ・たいむのクリスマス会だったため、どんな衣装を着て行こうか、どんなゲームをしようかわくわくしながら参加しました。

当日、はっちリーダーはサンタクロース、ぶんちんリーダーはクリスマスツリー(?)の格好をしました。緑と茶色の布を羽織った私の格好は果たしてツリーに近づけたのか不安でしたが、見てくれた人達の笑いは取れたと思います。

サンタの国から派遣された「クリスマスシスターズ」として皆の前に登場した後、じゃんけん列車とクリスマス〇×クイズをして遊びました。ゲームにクリアするともらえる「サンタポイント」を集めると良いことがあるかも?と匂わせながらゲームをした甲斐があったのか必死にじゃんけんに勝とうとしたり、クイズに頭を悩ませたりしている様子も見られました。

ゲームの後には、盛岡YMCAのぷらいむ・たいむ各校と本物のサンタさんをリモートでつなぎ、サンタさんに質問をするという時間がありました。画面の向こうのサンタさんに釘付けになる子の姿を見て、子ども達も感じているクリスマスの特別感を分けてもらえた気がしました。

クリスマス会の後も、子ども達と一緒に遊んでいたのですが、その合間に「今夜はチキンやケーキを食べるんだ!」とお話してくれた子ども達がいまいました。来年のクリスマスの時にも、子ども達とそんな話ができたら良いなと思った今年のクリスマスイベントでした。

岩手大学3年 小河原悠加(ぶんちんリーダー)

## ステップII 報告



日本YMCAスタッフ研修、ステップIIの研修期間を無事終え盛岡へ戻ってきました。ステップII研修は、9月30日～11月26日の約2か月の研修でした。国際青少年センターのYMCA東山荘で集合型研修を2週間行い、在日本韓国YMCAへ移動し、さらに1週間の研修を行いました。

それが終わるとオンライン講義となり、盛岡や実家のある福島に移動しながら研修を受けました。後半は、修了レポートという2万字以上の論文を作成するため、他団体訪問、レポート作成、発表準備など充実した日々を過ごし、最後は再び東山荘へ戻りました。

研修を経て、礼拝で自分自身の話をする機会や祈りを共にする機会、他のYMCAの様子、地域社会の課題など様々な学びがありました。課題やレポート、礼拝など日常とはまた違った時間の流れや、修了論文作成が思うように進まないなど、苦労した部分は多かったのですが、同期の研修生のアドバイスや、修了レポート指導教員の田口勉研究所長、共に寄り添って下さった方々のおかげで何とか研修を修了できました。

今回の研修で得た学びについて、まだ自分の中で整理はついておりませんが、全国のYMCAに同じ時を過ごした仲間を得ることができました。研修生同士、お互いに課題やレポートに苦労した状況だったからこそ、寄り添い合いが生まれ、乗り越えて仲間になったのだと思います。みつかる・つながる・よくなっていくがYMCAのスローガンですが、研修全体をまとめると、みつかる・つながる・何とかなる! (仲間と助け合い何とかなった!)と感じた2か月間でした。

このような学びや仲間づくりの機会を下さった皆様、不在の間現場を守って下さった皆様に謝申し上げます。

向中野センター長 尾形裕一





【はなまる】



こんにちは!最近、水道の水抜きをマスターしたはなまるです。岩手大学農学部で1年で、豊かな地域づくりを目標に勉強しています。個人的に豊かな地域づくりの豊かの部分には"子どもがたくさん遊べる環境が整えられている"ということも含むと考えているので、YMCAで様々な活動を通じて子ども達と関わることが出来、とても勉強になっています。

出身は群馬県で、滅多に雪の降らない地域だったため、12月入ってすぐに降り始めた雪にはとても驚きました。これからどんどん寒くなっていくのかと思うと少し不安ですが、それ以上に雪の中で子どもたちと一緒に遊ぶのが楽しみで仕方がないです!趣味は読書、お菓子作り、ソフトボールで、中学校、高校ではソフトボール部に所属していました。好きなのはプーさんと、冬場、窓際で日向ぼっこしながらするお昼寝です。

盛岡YMCAについては大学のサークルオリエンテーションという企画で初めて知りました。元々大学でもボランティアを続けていきたいと考えていたこと、子ども達とたくさん交流できることを知り、加入を決めました。初めの頃はYMCAのリーダーとして動く中で分からないことも多かったのですが、先輩リーダーのサポートのおかげで、今日まで多くのことに挑戦し、やり遂げることができました。また、子ども達の成長と一緒に喜ぶことが出来たり、自分たちで考えた活動で子ども達が楽しんでくれているのを直接見ることが出来たりと、多くのやりがいを感じています。

現在参加している活動は土曜日に行われている本町サッカーで、その他に野外活動やキャンプにも参加しました。どの活動でも子ども特有の力強さや考え方に触れることが出来、元気と刺激を貰っています。

もうすぐ子ども達も自分も学年が上がると、新しい子どもやリーダーが増えると思うと、とても楽しみです。これからも様々な活動に参加して多くの子どもたちと関わっていきたくらいなと思います。



岩手大学農学部2年野崎はな(はなまる)

(2022年1月5日現在)敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤眞一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹夫、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷普治、尾形裕一郎、菅原茉理奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地、浅沼慧、浅沼美希、武田悠、中村涉、濱塚直樹、濱塚牧人、清水好弘一、及川忠人、宮澤秋彦、中村亮介、水田賢次、松尾聡子、田村治之、名古屋恒彦、名古屋理恵、山田拓路、西野和真、花田瞳、小林明彦

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram

『光の旅 かげの旅』

アン・ジョナス作 内海まお訳 評論社



『光の旅 かげの旅』は、三つの「ない」がある、ナイスな絵本です。

一つ目は、「年齢に関係がない」です。小学生からご年配の方たちまで、幅広い年齢の方々に、楽しんでいただけます。

二つ目は、「時代を問わない」です。絵本の初版は、1984年でその後、コンスタントに版を重ね、33年経った今も、絵も文も古びずにあります。

そして、三つ目は、「絵本が最終ページで終わらない」です。私たちの日常と変わらないありふれた旅、早朝家を出発して、大都会まで行く旅、なのに白黒の粗いコンピューターグラフィックのような絵が、大胆で美しく、しかも、どこか謎めいています。それもそのはず、なぜか絵の上部に逆さ文字。これが「絵本が最終ページで終わらない」訳となっているのです。時には子どもたちのほうが先にこの謎に気がつき、謎の探求をはじめます。さあ最終ページにたどり着きました。その最後にこう書かれています。「本をさかさまにしてごらん!」

どうぞ、絵の上下を返して絵本の続きをご覧ください。すると、新たな夜の旅が始まります。シンプルな文と共に、さっきまで見えていた景色が、時間も空間も変化して、予想以上に美しく広がっています。シンプルな文が絵と合っていて、ビジュアルに敏感な現代人の心をしっかりと満足させてくれる一冊です。

ぷらいむ・たいむ盛岡中央校 名古屋理恵(しずリーダー)

表紙の写真から



12月18日、19日と2日間にわたってスキーのリーダートレーニングが安比スキー場で開催されました。東京YMCA、OBの小林明彦氏をお招きし、東京YMCAと北関東のYMCAが50年の長きにわたって共に研究してきた「こどものスキー」指導について学ぶことができました。